



理念

私達は、高い志をもち、時代の要請に基づき先駆的に社会福祉の充実を図るため、利他の精神をもって活力ある経営を行い、社会福祉法人としての責務を果たし、社会に貢献してまいります。



特集

TO-EN 宝箱の紹介

令和6年6月1日開催 東が丘障害福祉施設、東が丘荘『あじさいまつり』

もくじ

ご挨拶	1	法人を取り巻く環境	6
委員会活動報告	2~3	こころ合わせて	7
特集ページ	4~5	和みのページ	8



理事長挨拶 ハラスメントとコミュニケーション

理事長 中村 明彦

ハラスメント＝嫌がらせやいじめを指す言葉で他者に対して不利益や不快感を与える言動。

労働施策総合推進法（パワハラ防止法）、男女雇用機会均等法（セクハラ防止）では必要な措置を講ずることを事業者に義務付けています。それ以外にもハラスメントにはマタハラ、ケアハラ、モラハラ、ジェンダーハラ、アルハラ、リスハラ、テクハラ等、相手が嫌がる事をして不快感を覚えさせる行為があげられます。

こうしたハラスメントに共通しているのはコミュニケーションが不足していることも一因であるのではないのでしょうか。今の時代 SNS (TikTok、インスタグラム、ユーチューブ、X (旧ツイッター)、フェイスブック等) で一方的に発信し、

言葉が届く近くの席にいるのにメールで連絡する、面と向かって対話が出来ずお互いの気持ちが分かり合えない状況もあります。以前は相手の顔が見え、対話（コミュニケーション）があり、十分な意思の疎通が出来、言葉のやり取り、誤解の解消も出来ました。

私達の国の美しい日本語で大いに会話をしましょう。礼儀正しいきれいな言葉を使いお互いを思いやる言葉、そして相手の立場になって物事を考え行動する、そういう心の余裕をもてばハラスメント行為は無くなるのではないのでしょうか。

わが法人は職員一人一人が明るく、楽しく、仕事をし、全ての人に喜んで頂ける場を提供して参りましょう。

令和6年度 第1回新任職員研修

令和6年4月11日・12日に「令和6年度 第1回新任職員研修・接遇研修」を実施し、新卒者4名を含む、20名が受講しました。今年度も引き続き、対面での研修で交流を深めることができました。

中村理事長より「福祉の理念」、菅田副理事長より「社会福祉法人制度」、山口常務理事より「法人の歴史」、中田常務理事より「学びのすすめ」についてそれぞれ講話がありました。



午後からのグループワークでは、各グループに先輩職員を迎えて『働きやすい職場とは～よりよい職場づくり』をテーマに楽しく盛り上がりました。最後は、法人6委員会の委員長より、委員会活動の説明がありました。受講者からは、「役員の考えをしっかりと聴くことができ、良い研修でした。」「同期の意見交換の場をこれからも設定してほしい」などの感想がありました。



新任主任研修(今年度昇任した12名が参加)

これまでは新任指導職研修(主任・係長合同)で実施していた研修が(主任・係長別々)での研修となりました。エイテル研究所の増田講師をお迎えして、①コーチング等の人材育成に関する知識や基本技術 ②業務における視野を広げるなどを学びました。

受講者の感想では、「多職種交流ができて良かった」「主任になって不安だったが、同じ気持ちを共有できた」「数年後にまた開催してほしい」がありました。

新任係長研修(今年度昇任した3名が参加)

新規企画「新任係長研修」。今年度は3名の方が受講しました。

菅田副理事長、中田常務理事より受講者にエールを送りました。

そして、今回の講師は、本部人材担当 関町福祉園 木村施設長、小豆沢福祉園 中川施設長、東が丘荘 福島施設長の3名でした。法人の係長職としての心構えや体験談を聴き、意見を交わしながら和やかな研修となりました。

受講者の感想では、「係長としての心得を学ぶことができた」「施設長の生の声を聴いて身近な存在として感じられる良い機会となった」「施設長の経験談など、とても参考になりました」と好評でした。



働きやすい職場づくり委員会

働きやすい職場づくり委員会は、法人の職場環境をより良くするための企画を立案しています。職員にとって働きやすい職場環境を提供しつつ、法人に対する帰属意識を醸成することを目的としています。

月1回の委員会の開催を基本とし、情報共有、企画の立案とその実施に向けて委員が協力して活動しています。大きな取組みとしては以下の3つです。

1 新卒採用の取組強化

本格的に取り組んで、3年目を迎えた新卒採用活動は求人サイトを活用しています。採用実績も年々上がっています。求人サイトをベースにした手法で働きやすい職場づくり委員会が中心となり、新卒採用に全施設で取り組んでいます。



就職フォーラムの様子

新卒採用までの主な流れ



2 キャリアデザインの具現化

法人は、一般事業主行動計画を策定しています。働きやすい職場づくり委員会が計画達成に向け、適宜情報発信等を行っています。法人の目標には、管理職に占める女性比率の向上があり、計画達成後には次世代育成支援対策推進法に基づいた「くるみんマーク」や女性活躍推進法に基づいた「えるぼし認定」の取得を目指しています。



くるみんマーク



えるぼし認定

3 職員の帰属意識の醸成

職員が、より楽しみながら他施設職員との交流を目的としたハイキングやバーベキュー等のイベントを企画します。施設を越えた職員交流の場を提供し、職員の帰属意識の醸成につなげています。これまでに、法人設立記念式典、ボウリング大会の企画実施、役員と職員の交流の場も提供しています。コロナ禍はリモートによる「トップとランチミーティング」を開催しました。



法人 65 周年記念式典



ボウリング大会



トップとランチミーティング

特集

TO-EN 宝箱の紹介



東京援護協会の障害者施設の自主生産品を取りまとめた小冊子を作成し、『TO-EN 宝箱』と名付けました。今回の特集では『TO-EN 宝箱』の紹介と共に、各施設の自主生産品を掲載します。

高島平福祉園

フロランタンはサブレ生地にキャラメルでコーティングしたアーモンドをのせた焼き菓子です。



1枚、1枚、丁寧に作り上げ、キャラメルを焼いた香ばしさとアーモンドの風味が調和した、当店でも人気のお菓子です。



前野福祉園

アトリエまえのの菓子製品は、国産小麦等厳選した素材を使用し、丁寧に焼き上げています。コンテストで日本一になったオレンジシフォンをはじめとした焼き菓子をどうぞご賞味下さい。



関町福祉園

令和5年11月より、武蔵関駅近くの「セブン-イレブン練馬関町北1丁目店」様で、自主生産品のビーズ・レジンアクセサリー・缶バッジ等を販売していただいています。



レジン
アクセサリ



ビーズ
アクセサリ



町田荘



オリジナルデザインの缶バッジを作成しています。ノーマルピン、マグネット、クリップなどご希望に合わせて裏面を変更可能です。また、お客様がご用意されたデザインや写真を缶バッジにすることも出来ます。

以前に施設公開行事、関町フェスティバルに出店していただいたことでご縁となりました。店長さんの福祉への関心、貢献のお気持ちにより店舗販売が実現しました。



缶バッジ



定期的に利用者の方々との納品へ行き、社会への関心も強まり、意欲にもつながっています。

東が丘福祉工房



「ス～ハ～マーケット」は、板橋区にあるTOKYO SOCIAL DESIGN 内「gallery TDS」で開催されている、様々な福祉作業所の商品を集めて販売するイベントです。東が丘福祉工房では、今年1月より、毎月第3金・土・日に出店しています。



蓮根福祉園



色とりどりに輝くナンキンハゼの紅葉を、麻の生地でコースターに見立てました。生地カットから仕上げのアイロンまで、一つ一つ丁寧に手作業で行っています。



小豆沢福祉園



当園の自主生産品はビーズ製品、布製品と紙製品です。おすすめはステッチストラップです。イニシャル、干支のデザインです。利用者の方がビーズの色を決め、集中して一生懸命作っています。色やアルファベットを指定してカスタマイズもできます。



大泉障害者支援ホーム

TO-EN 宝箱でご紹介した水耕栽培レタスを外部販売会での販売や、定期購入してくださる近隣店舗や企業へ配達することも利用者さんの大切な仕事の一つとなっています。



三園福祉園

七宝焼き各種は利用者の方々が銅板の裏引き、色付けなどの各工程を手掛けており、一点一点丁寧に仕上げています。福祉園や地域の催事で販売しており、美しい仕上がりが好評をいただいています。



七宝商品
550円～880円



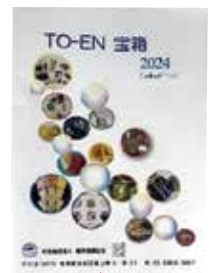
田柄福祉園



令和5年度より、練馬区立平和台図書館から地域交流の一環で「つなげようひろげよう交流の輪」を開催されました。当園にもお声を掛けて下さり、館内にて自主生産品販売をさせていただきました。図書館の職員さんのサポートもあり、多くの方に商品を見ていただく機会となりました。今年度も図書館内にて販売を予定しております。皆様の来館をお待ちしております。

令和5年度に法人広報委員会の新しい取組みとして、東京援護協会の障害者施設で製造した商品の紹介用として自主生産品カタログ「TO-EN 宝箱」を作成し、令和6年度より発行させていただきました。

自主生産品を販売した売り上げは工賃として利用者に支払われ、利用者が自立した生活を送るための大切な収入源となっております。機会がありましたら、ぜひ、お手に取っていただければ幸いです。



カタログは各施設で配布しています!!



昨年度、東京都社会福祉協議会の研修で「session! TOKYO 2023」に関わったことにより、研修の講師からス～ハ～マーケットを紹介されました。出店をとおして「もっとこんな風にアレンジすると売れると思いますよ」「パッケージを変えてみると見栄えが良くなりますよ」など、販売促進へのアドバイスをいただき、当施設の商品をより良く変えていくきっかけになっています。



あじさい石鹸



革製品



ビーズ製品



東京援護協会各施設の地域貢献活動の一部を紹介します。

いずみの苑 仲宿地域包括支援センター



板橋区立加賀小学校での説明の様子



車いす体験の様子



高齢者疑似体験の様子

令和5年10月25日に板橋区立加賀小学校において、「介護体験教室」を開催しました。対象は、小学校4年生の生徒さん約70名。内容は、「車いす体験」と「高齢者疑似体験」です。

開催の目的は、地域共生社会の構築に向けて「共に支えあう心」を子どもたちに持ってもらうことと、介護分野と教育分野のネットワークの構築です。

当日は、子どもたちに、高齢者の側の立場と介護者側の立場の両方を体験してもらい、それぞれの不便さや大変さを感じてもらいました。また、運営については地域の民生委員・支えあい協議会・老人クラブ・介護サービス事業所の皆様にお手伝いを頂き、仲宿地域の連携の強化につながりました。

高島平福祉園

平成29年度に開設された地域貢献委員会が、早くも8年目を迎えることになりました。数名の委員で地域住民とどのように作り上げていくか、試行錯誤を重ねながら活動してきました。

開催当時は、わずかだった来客数も、展示コーナーの開設、広報誌の作成、イベントでは落語会・映画鑑賞と回を重ねるごとに、来場者が増えていき、会場が満席になった時のことは今でも鮮明に覚えています。

「どうしたら来場者が増えるか」の課題が、「満席になったらどうしよう」といった少し贅沢な課題に変化してきました。隣接する3時 café のおかげもあり、今後も多くの来場者が見込まれるため、優雅なひと時を作り上げていきます。



映画鑑賞



落語会



ハーバリウム

特別養護老人ホーム サルビア荘



転倒予防教室①



転倒予防教室②

サルビア荘では近隣にお住まいの皆様を対象に介護に関する有益な情報をお届けするべく身近な問題を中心に定期的に介護教室を開催しています。

今回は今年の3月に開催された家トレについてご紹介します。家トレとは町田市内の高齢者支援組織を中心に推奨されている家庭でできる簡単な体操を行うことでフレイル予防に取り組んでいただけるトレーニングです。

当日は町田市内のリハビリデイサービスセンター職員の方を講師にお迎えして、ご自宅でも楽しく体の機能を維持できる体操を行うことで、転倒予防や嚥下機能低下防止などフレイルを予防できるトレーニングを教えていただきました。

東京援護協会各施設で災害を想定して防災訓練や避難訓練を実施しています。こちらのページでは訓練の様子をまとめて紹介します。

地域合同防災訓練を行いました



スタンドパイプの使用
方法を教わりました。



担架を使って救護訓練をしました。



起震車で地震体験を
しました。

東が丘障害福祉施設・東が丘荘

令和6年2月3日、地域民生委員の方々と合同で防災訓練を実施しました。町会、消防団、消防署、警察署から40名が参加し、消火や救護の訓練を行ったほか、起震車体験や備蓄品の情報共有を行いました。町会と消防署のご協力により、初めてスタンドパイプ使用訓練も行いました。(スタンドパイプは、消火栓に差し込むことで、簡単な操作で誰でも放水ができるようにする器材で、消防車両が進入できない地域などで活用されます。)参加者から「自分たちの地域を自分たちで守れるよう、訓練を定期的に行い、防災意識と防災対応力を高めていきたい」と、訓練の重要性を強調するご意見を多数いただきました。今後も地域の皆さんと助け合って地域防災に取り組んでいきます。

自立支援センター板橋寮

毎月避難訓練を実施しているほか、近隣の消防署から水消火器を借りてきて初期消火の訓練もしています。今秋の避難訓練では災害時を想定し、防災備品として準備している飯盒できちんとご飯が炊けるか挑戦する計画を立てています。



特別養護老人ホーム蔵前

コロナ禍で延期していた町会との合同防災訓練をやっと実施することが出来ました。消防設備の保守業者にも参加してもらい、実際に火災警報装置を作動させ、全フロアの職員、警備員、町会との緊密な訓練を行うことが出来ました。また、水消火器を使用した消火訓練でいざという時に備えました。



東京高次脳機能障害者支援ホーム

新人職員や救命技能認定の更新を迎えた職員を対象とした救急救命講習を実施しています。

講習では、テキストを使用し、心肺蘇生、異物除去、止血法など、基本的な救命処置を学びました。

その後、AEDを使用した実践的な講習を受け、皆、真剣に取り組みました。



中村橋福祉ケアセンター

利用者の皆様と共に避難訓練を毎月実施しているほか、職員向けに毎年救命講習を開催し、緊急時に心肺蘇生法やAEDを活用できるように備えています。センターは他の法人が運営を行う事業が複数一緒の建物に入っているため、合同の訓練もしています。昨年度に光が丘へ移転し、新たな環境下で様々な場面を想定し訓練していききたいと思います。



支援マテリアル紹介

「つまずいても転ばないための体づくり運動」

ケアハウス松が谷

高齢者の 1/3 が年に 1 回以上転倒し、その半数以上の方に処置（骨折は 1 割）が必要になります。しかし運動をすることで転倒率は 23%減少し、年 1 回以上の転倒をする人は 15%減少するそうです。そこでケアハウス松が谷では外部から理学療法士の先生をお呼びして、先生の指導のもと、つまずいても転ばないための体づくりをするために「**転倒予防体操**」を行

つま先を
しっかり伸ばして…



ました。最初に座学と自分の転倒リスクをチェックし、それを基にストレッチ、筋力トレーニング、足趾トレーニング、バランストレーニング、足踏みエクササイズ、起立トレーニングを行いました。

事前に近隣にお住まいの方にチラシで周知していたこともあり、当日はケアハウスの住人以外にも 20 人ほど外部からお越しいただき、大盛況となりました。

まずは転倒リスクを
チェックしてみましょう！



ふむふむ、
なるほど



体勢がキツイけど、
もう少し頑張ろう～



東援歳時記

小豆沢福祉園「入園式」

今年度は 1 名の新しい仲間がご入園されました。コロナ禍ではリモート中継での開催でしたが、今年度は 5 年ぶりに全員参加で行われました。新入園生をむかえるために、2 グループに分かれてお祝いパフォーマンスの内容をみんなで考え練習しました。

当日は練習の成果を発揮でき、楽しそうにパフォーマンスを披露することができました。みなさん元気いっ

ぱいの笑顔で歓迎し、緊張していた新入園生も少し表情がゆるんだようでした。昨年度入園した先輩から花束を贈呈し、歓迎の言葉を贈るなど、盛大にお祝いすることができました。今後は、小豆沢福祉園でたくさんの楽しい思い出を作りたいと思います。



大泉障害者支援ホームでは
2名の方がご入園されました。



蓮根福祉園では1名の方が
ご入園されました。

編集後記

東援だより42号をお読みいただきありがとうございます。今年度は広報委員会のメンバーが大幅に変わりましたが、今までと同様に法人の活動をお伝え出来たこと、委員一同嬉しく思っています。

さて、パリでオリンピックが開幕しました。今回のオリンピックは街全体を競技の舞台とし、開会式はセーナ川で史上初の水上パレードを行うといった特徴があり

ました。前回の東京オリンピックはコロナ禍での開催だったため、無観客など多くの規制がありました。それもまた、ひとつの出来事として残すべき「記録」だったのかと思います。

広報委員会でも法人の活動をお知らせするとともに「記録」として残していきたいと思



東援だより 第42号

発行日 令和6年8月7日

発行者 中村 明彦
社会福祉法人 東京援護協会
東京都台東区東上野3-18-11